

interview

with the Governor of the Prefecture

知事インタビュー



浅野史郎知事は、「もっとも生きる力が弱い人にとって住みやすいところは、すべての人にとって住みやすい」という信念で、福祉政策を県政の柱に据えている。「日本一の福祉先進県」をめざす宮城県知事に、そのビジョンである「みやぎの福祉・夢プラン」や「バリアフリー国体」と位置づけた21世紀最初の「宮城国体」などについてお話を伺った。

【利用者の視点で福祉政策を行う】

宮城県のめざす福祉は何ですか？

浅野 福祉先進県をつくるには、まずビジョンが必要です。「福祉・夢プラン」は、福祉先進県をめざす強い意志や、そこに至る道筋や方向性をわかりやすく言語化したものです。私たちは、一握りの“哀れな人々”のために何かよいことをするという、これまでの福祉の常識をまず否定することからはじめました。いずれは、誰もが老い、誰もが障害をもちます。

これまでの福祉政策は、とすれば供給者側の論理で進められ、施設重視になりがちでした。利用者側に立てば、そうはならないという確信が、私にはあります。

長崎県の知的障害者施設「コロニー雲仙」では、創設以来毎年、入所者を対象にアンケート調査を行っています。質問項目は、「今、いちばんやりたいことは何ですか？」。毎年、その答えの第1位は、「早くおうちに帰りたい」です。

どんなに素晴らしい施設でも、入所者は地域の中で自立した生活を望んでいます。

県が打ち出す1つひとつの施策にも、何のためにという意味づけが必要です。「福祉・夢プラン」は、利用者の視点に立って、21世紀の宮城県の福祉の方向性を示すために作成しました。

【介護保険は町興しの起爆剤】

介護保険の影響をどのようにお考えになりますか？

浅野 2000年4月から介護保険が施行される意義はとても大きい。福祉がはじめて恩恵から権利となります。増大する介護

需要を社会として支えていくことは、家族が家族であり続けるためにも必要です。また高齢化率が高いということは、それだけ多くの介護需要が発生しており、サービス提供のための雇用機会が生まれ、経済が活性化するということです。さらに、需要の多いところにお金が回ってくるという財政調整機能もある介護保険の施行後は、財政的に余裕がないので福祉をやらないという言い訳はできません。

こういう仕組みを通して介護保険は、過疎化、高齢化で悩む市町村にとって起死回生の転回軸になり得る。町興しの起爆剤にもなり得るでしょう。

宮城県は、高齢者の面倒は家族がみるという土地柄です。しかし高齢化が進むと、膨大な介護需要を家族では支えきれなくなります。介護保険は家族の負担を軽減し、家族機能を高めるためにも必要です。

【国体開催でバリアフリーを普及する】

2001年の宮城国体の副題は、「バリアフリー国体」ですが、

浅野 国体の開催には莫大なお金と労力がかけられます。一過性の大会ではもったいない。バリアフリーの思想と実践を、国体を契機に根付かせたいという意図で、宮城国体を「バリアフリー国体」と名付けました。

さらに国体後には、第1回全国障害者スポーツ大会が行われます。現在別々に催されている身体障害者と知的障害者の

宮城県知事 浅野史郎氏

Mr. Shiro Asano Governor of Miyagi Prefecture

あさの しろろう●1948年、宮城県生まれ。
1970年、東京大学法学部卒業。同年、厚生省入省。1993年、宮城県知事当選、現在2期目

財政的に余裕がないので 福祉をやらないという 言い訳はできない

We simply cannot make any excuses on financial issue
for not providing suitable social welfare

スポーツ大会が統合され、記念すべき第1回の大会が開催されるのが宮城県です。まさにバリアフリーの思想を広める絶好の機会です。

車イスでも利用できる観戦スタンドがある。宿泊施設の従業員も介護に慣れている。大勢のボランティアが大会運営に参加する。235万宮城県民が、程度の差はあっても、何らかの私たちで国体に関わってほしいと思っています。

エレベーターは1台よりも5台がいいに決まっています。しかし既存施設はもちろん、新設施設についても、バリアフリー仕様を施すには、財政的に限界があります。ハードウェアが間に合わなければ、ソフトウェアやヒューマンウェアでカバーしていく。それ自体も財産になる。さっと手をさしのべる人の存在が重要です。

ユニバーサルデザイン国体では、いけなかったのですか。

浅野 ユニバーサルデザインはユニバーサルユースに耐える施設や製品です。バリアフリーの進化した概念ですね。少し広いトイレをつくれれば、障害者専用トイレをつくらなくとも、誰もが利用できます。それは十分理解していますが、用語の理解度がまだ低い。

出世の階段のようなもので、十両を飛び越して、幕下から幕内には上がれない。バリアフリーもわからないのに、ユニバーサルデザインとはいえないわけです。

【教育の本質は障害児教育】

障害児教育について、どのようにお考えですか？

浅野 日本の学校制度ではSpecial Educationを特別教育ではなく、特殊教育と訳します。障害をもつもたないで、区別するのはよくありません。

『五体不満足』を著した乙武君は、ずっと普通学級です。その間、彼はハンディキャップを感じたことはないといいます。周りが、かわいそうだと思えば、障害をもつ人は、本当にかわいそうな存在であると思ってしまう。障害は、そう感じさせる人々の目ですから。

身長の高低のように、障害が1つの個性として受け取られるには、幼いときからの統合教育が必要で、それなしに、「障害者に理解を！」と百万回いってもムダです。

宮城県では来年度から、県内の小学校特殊学級にきわめて重い障害児を受け入れはじめます。最初は3校だけの小さな出発ですが、施設が改善できなくても人を配置して、施策を実行します。

子ども病院の建設計画がありますね。

浅野 現在、3次の小児医療を手がける子ども病院は、宮城県にはありません。質・量ともに膨大なニーズに対応するために、20万人以上の署名を受け、「子ども病院」建設計画をスタートさせました。

完成は2003年の予定です。最初から赤字になる見込みですが、赤字分は21世紀の宮城県を支える子どもたちへの投資として捉えています。病院設備と併せて必要な子どもと家族の宿泊施設としては、マクドナルド社が社会貢献の一環として行っている「マクドナルドハウス」を調査中です。